

授業科目名	美術の理解(2100118)		
時間割名	美術の理解(23102)		
時間割担当	大場六夫		
実施期	前期	単位数	2 必修
曜日・時限	火・3		

授業の目標・概要

美術、デザインの歴史を通し全般の基礎的な知識と理論を学ぶことで美術、デザインに興味を抱き、図画工作の教育をはじめよりよい学校教育に結びつくことを目的とします。
各歴史を通して具体的な作品鑑賞とそこから生まれる学校教育への可能性を模索し、美術、デザインの理解を基とした教材を開発することを目的とします。

学習の到達目標

美術、デザインの歴史を具体的な作品鑑賞と理論を学ぶことで実践的な教育に結びつくことを目標とします。

授業方法・形式

それぞれの授業に対して、テキストや補助資料を活用しながら進めていきます。
必要に応じ、取り上げる授業のテーマに関するディスカッション、研究も行います。

授業計画

授業計画(1)

第1回美術・デザイン

現在における美術界、デザイン界の現状に触れる。その中で表現の魅力を感じ、技法について学ぶ。

第2回日本美術史

日本の美術の流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。

古代(縄文・弥生・古墳時代)から奈良、平安時代の作品、古代(縄文土器・土偶・各遺跡)奈良(白鳳・天平期の彫刻、絵画)、平安時代(弘仁時代・貞観時代・藤原時代)を鑑賞し、技法のみならず表現について学ぶ。

第3回日本美術史

日本の美術の流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。

鎌倉時代から室町時代の作品(鎌倉時代、絵巻(鳥獣戯画)・彫刻(運慶、快慶))を鑑賞し、技法のみならず表現について学ぶ。

第4回日本美術史

日本の美術の流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。

桃山時代から江戸時代の作品(桃山時代、狩野派・長谷川等伯・二条城)(江戸時代、琳派・圓山応挙・北斎)を鑑賞し、技法のみならず表現について学ぶ。

第5回日本美術史

日本の美術の流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。

幕末から明治時代の作品(横山大観・下村観山・竹内栖鳳)を鑑賞し、技法のみならず表現について学ぶ。

第6回日本美術史

日本の美術の流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。

大正時代から昭和時代の作品(白樺派・二科会)を鑑賞し、技法のみならず表現について学ぶ。

第7回西洋美術史

西洋の美術の流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。

古代期における作品(メソポタミア美術・エジプト美術・ギリシア美術・ローマ美術)を鑑賞し、技法のみならず表現について学ぶ。

第8回西洋美術史

西洋の美術の流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。

中世期における作品(ロマネスク美術・ゴシック美術)を鑑賞し、技法のみならず表現について学ぶ。

成績評価の基準

授業計画（2）

第9 西洋美術史

西洋の美術の流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。
近現代における作品（ルネサンス・バロック美術・ロココ美術）を鑑賞し、技法のみならず表現について学ぶ。

第10 西洋美術史

西洋の美術の流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。
近代期における作品（18世紀から20世紀の美術）を鑑賞し、技法のみならず表現について学ぶ。

第11 西洋美術史

西洋の美術の流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。
現代期における作品（現代アート・ポップアート）を鑑賞し、技法のみならず表現について学ぶ。

第12 デザイン史

世界のデザインの流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。
1851年ロンドン万国博、アーツアンドクラフト運動、アール・ヌーボーについて技法のみならず表現について学ぶ。

第13 デザイン史

世界のデザインの流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。
エミール・ガレ、パウハウス、スクーター「ベスパ」、カッサンドル、ロートレックのポスターについて技法のみならず表現について学ぶ。

第14 デザイン史

日本のデザインの流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。
橋口五葉、和田三造、北野恒富、杉浦非水、片岡敏郎、亀倉雄策、早川良雄、永井和正、大橋正、田中一光、横尾忠則のデザインについて技法のみならず表現について学ぶ。

第15 デザイン史

日本のデザインの流れ、様式の変遷、各時代の代表的な作品や作家の研究。
東京駅丸の内駅舎デザイン、資生堂のデザイン、サントリーのデザインについて技法のみならず表現について学ぶ。

成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと毎回の課題レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。（30%）
さらに、芸術鑑賞の課外自主活動のレポートを評価対象とする。（30%）
学期末テストにおいて総合的な理解を確認する。（40%）

準備学習・復習及び授

美術、デザインに対する関心を高めるため、近隣の美術館に足を運び、授業理解に生かすこと。
美術、デザインに関する書物に触れ、レポートを作成し、美術理解に努める。

履修上のアドバイス及

講義時間内にお伝えします。

教材・教科書

テキスト：授業者作成のスライドなど

参考書

参考書：別途指示します。